

平成24年3月22日

— 研究科紹介 —

教員養成教育と教育学研究における中核的拠点機能の強化をすすめる教育学研究科・教育学部

教育学研究科・教育学部では、教員養成教育と教育学研究の両機能を併せ持つ研究科・学部ならではの教育・研究活動を展開し、それらの領域における拠点性を一層強化することに努めています。そのために、現在、全国的に求められている教員養成機能の充実を図るとともに、国内外への発信機能の強化も図っています。

1. 教員養成機能の強化**a. 到達目標型プログラム化し、スタンダードを設定して、単位修得主義から到達度主義へと改革**

広島大学の教員養成は、プログラム化によって高度化を図る改革に取り組んでいます。広大スタンダードの設定により単位修得主義から到達度主義へと転換し、理論と実践の往還に基づく学びを実現するカリキュラム改革、教職に関する意識・使命感を段階的・継続的に醸成する教育実習の体系化、到達度を自ら確認できる教員免許ポートフォリオの導入を実施しています。

b. 養成段階で身に付けさせるべき教員に求められる資質能力としての授業研究力の育成

広島大学では、教員に求められる資質・能力としての授業研究力の養成を重視し、各教科それぞれの目標、内容、方法、評価を自立・自律して理論的に考え、実践できる教員の養成に取り組んでいます。

昨今、その重要性が指摘されている、いわゆる教職と教科を架橋する科目として、広島大学では早くから重視してきた教科教育関係の授業の一層の充実を図る改革を進めてきました。教科教育学独自の学問領域である「教科論」「目標論」「カリキュラム論」「教材（資料）論」「評価論」などを基盤とする「〇〇科カリキュラム論」「〇〇科教材構成論」「〇〇科プランニング論」「〇〇科授業論」「〇〇科教育方法論」「〇〇科教育評価論」など、他大学には余り見られない授業を開講するカリキュラム改革を実施し、従来から充実している教育学、心理学などの授業と連動して授業研究力の強化を図っています。

c. 教育学部とそれ以外の学部の連携を強化し、教育学部以外の学生の履修もプログラム化して、目的・体系的な学びへと改革

広島大学では、教育学部とそれ以外の学部との全学的連携の強化を進めつつあり、今後、一層この連携の強化を図る計画です。

具体的には、教育学部以外の学部にも所属する教員希望学生が、教員としての資質・能力形成を目的・体系的にできるように、教育学部において各教科に対応した副専攻プログラムを開発しています。また、相互に受講可能な授業の拡大と、それらの受講を円滑にするための時間

割設定を進めるとともに、一部を除く全学の「教職実践演習」を教育学部が実施することにより、所属学部にとらわれずに、教員としての質の確保を図る態勢を構築中です。

d. 附属学校、公立学校と連携し、理論と実践を結合したアクション・リサーチを軸とした大学院における教員養成の高度化

社会の高度化・複雑化に伴い、教員に求められる資質・能力も拡大・複雑化・高度化し、養成期間の延長が議論されています。広島大学ではそれらの論議を踏まえ、大学院を視野に入れた教員養成を検討するとともに、現行制度下の大学院における教員養成の改革を進めています。

教育学研究科では、博士課程前期に教職高度化プログラムを開設し、附属学校、教育行政機関を研修の場とする「アクション・リサーチ」と、公立学校、教育行政機関を研修の場とする「課題解決実習」を開講しています。メンター制を採用し、大学の教員とともに配属先の学校の校長・教員も当該学生の養成に深く関わる体制としています。

2. 平成23年度学者・専門家交流事業（文部科学省委託事業）「授業研究による数学及び理科教師の教授能力向上に関する東アジア4カ国国際会議」の開催

平成24年1月26日から28日の3日間、教育学研究科では、平成23年度の文部科学省委託事業である「学者・専門家交流事業」として、「授業研究による数学及び理科教師の教授能力向上に関する東アジア4カ国国際会議－PISA型リテラシーの育成を目指す授業の分析を通して－」を実施いたしました。

広島大学は、初等教育、中等教育、高等教育の教員養成において長い伝統を持ち、東アジア4カ国を初めとする世界各国の研究者と活発な研究交流を行っています。本事業では、国際シンポジウム並びに国際ワークショップを通して、これまでの研究者のみならず教育実践者、教員指導者を含めた交流を促進し、参加各国の数学教育及び理科教育を中心とした教科教育学や教師教育の国際教育交流に資するものと考えております。

(補足資料1)

3. ドミニカ共和国における教員養成機能強化支援プロジェクトの実施

教育分野での国際協力の重要性が言われる現在の国際社会にあって、教育立国に成功した日本は、その成果を世界に発信することが求められています。教育学研究科では、その一方途として、中米ドミニカ共和国をフィールドに発展途上国における教員養成系大学の改善を支援するモデル構築を図って、アメリカ大陸で最も歴史が長いサントドミンゴ自治大学(UASD)と平成22年度より3カ年の計画で共同研究を行っています。

(補足資料2)

4. 高等学校教員のための指導力向上セミナーの開催

教育学研究科では、高等学校の先生方の自己研鑽に寄与するために、去る2012年3月20日、高松市のサンポート高松において、文部科学省ならびに関係教育委員会のご後援をいただき、「高等学校教員のための指導力向上セミナー」を開催致しました。四国各県、岡山県を中心として予定人員の2倍近い方の参加をいただきました。

(補足資料3)

【お問い合わせ先】

広島大学大学院教育学研究科
運営支援グループ
TEL:082-424-6705 FAX:082-424-3478

【補足資料】

（補足資料 1）

学者・専門家交流事業

「学者・専門家交流事業」は、主として東アジア地域の教育分野における交流を対象とし、各国の学者及び研究者等の専門家を我が国に招へいして国際会議を実施することにより、我が国との国際教育交流の推進を図ることを目的とする公募事業で、本研究科は昨年度に続く採択となりました。

本年度の参加国は韓国、中国、シンガポールそして日本の4カ国です。これらの国々から、研究者、教育実践者そして教員指導者にご参加頂きました。特に、日本国内からは、中国、四国、近畿、九州地方の教育委員会から指導主事の先生をお招きし、国際ワークショップ、シンポジウムで活発なご意見をいただきました。本年度は、数学教育及び理科教育における授業研究に関する情報交換及び国際交流を行い、PISA型リテラシーを育成する授業を題材として、授業研究の方法論について検討いたしました。

初日は広島市立東原中学校で、第2日は広島大学附属福山中学校で授業観察を致しました。そして、第2日には、国際ワークショップを開催し、参加各国の理科と数学の授業をDVDで観察し、授業構成の意図や生徒の反応などについて相互に質疑応答をし、自国ならびに他国の授業の改善について、意見交換をしました。実際の授業事実を共有し、それを題材にして、各国の授業分析のあり方の実態をより明確にし、そこから得られる示唆の共有化を図りました。

それを受けて、最終日のシンポジウムでは、「日本の数学教育及び理科教育の戦略」についてのご講演をいただいた後、韓国、中国、シンガポールそして日本で教員養成教育や教育研究の中心的な役割を果たしている大学・高等教育機関から、数学教育学と理科教育学に関する研究者の方々に登壇頂き、授業研究の方法とそれを通して行われる教員の生涯にわたる成長について議論を深めました。

広島大学は、初等教育、中等教育、高等教育の教員養成において長い伝統を持ち、東アジア4カ国を初めとする世界各国の研究者と活発な研究交流を行っています。本事業では、国際シンポジウム並びに国際ワークショップを通して、これまでの研究者のみならず教育実践者、教員指導者を含めた交流を促進し、参加各国の数学教育及び理科教育を中心とした教科教育学や教師教育の国際教育交流に資するものと考えております。そして、それらの成果を広く日本国内並びに参加各国の教育学研究者や教育実践者、教員指導者で共有し、活用したいと考えております。授業研究の方法論に関する議論は、参加した実践者によって咀嚼研究交流を継続させるとともに、吸収されることで、各国の教育実践の深化・改善に役立てられる可能性を秘めています。さらには我が国の授業研究に対する認知や評価を高め、将来の教育交流を活性化させることも期待できるでしょう。参加者からは、このような国際的な事業の継続を強く望む声を多数いただきました。

国内外の研究者、教員指導者や実践者の先生方が、本ワークショップ、シンポジウムの成果を地元にお持ち帰り下さり、また、参加下さったすべての方々が、各々、各地の中核となって本事業の成果を広めて下さることで、今後、成果が広く波及することを期待しております。

（補足資料 2）

ドミニカ共和国における教員養成機能強化プロジェクト

サントドミンゴ自治大学教育科学部における教員養成の実態（理念、制度、実施内容、意識等）を調査し、日本との類似点ならびに相違点等を考察して、その特徴を明らかにし、それを踏まえて、研修プログラムを研究開発しています。その調査・分析に基づき、広島大学大学院教育学研究科の教育経験を活かした改善策を考察し、発展途上国の持続的発展を担う次世代育成システム構築のモデルについての研究を行っています。

UASD 教育科学部と 3 年間の開発的研究を行うにあたっては、両国の教育制度や学校教育現場の状況、両大学の教員養成課程の実際等に関する相互理解が欠かせません。したがって、研究初年度である平成 22 年度の活動は、広島大学側がドミニカ共和国内で現地調査を行うとともに、UASD 教員を招聘し、セミナー等の開催による情報提供を行いました。そうした相互理解と協働体制を基盤として、研修プログラム開発の目的・内容・評価の枠組みを設定しました。具体的には、ドミニカ共和国における現地調査の効果を高めるために、関係文書資料を収集・翻訳し、その解析を行うとともに、研究リーダーとグループ員がドミニカ共和国を訪問し、UASD 教育科学部における教員養成の実態等を視察するとともに、教育行政担当者等からの聞き取り調査も行い、資料・情報の収集を行いました。また、ドミニカ共和国の教員養成関係者を日本へ招聘し、日本の学校教育現場・教員・児童、本学の教員養成現場の視察を行い、両国の類似性や差異について意見交換をしました。

2 年目の平成 23 年度は、引き続き、広島大学の教員が UASD に出向き、UASD 教員に対する種々のセミナーを開催すると共に、UASD 教員を広島大学に招き、当方の用意したプログラムに参加して頂きました。大学における授業の参観だけでなく、附属学校における授業観察、学会研究大会への参加などもして頂きました。2012 年度も引き続き、セミナーの開催などを行う予定です。

(補足資料 3)

高等学校教員のための指導力向上セミナー

広島大学は、その前身の広島高等師範学校ならびに広島文理科大学の時代から、長年にわたって全国の高等学校教員の養成に力を尽くしてきました。この度、国立総合大学としての知的財産の社会への還元（大学の社会的責任）、国の教育政策の社会への普及活動に対する支援（大学の社会的使命）、後期中等教育の質的保証と質の向上への対応（大学の社会への貢献）の立場から、全国の高等学校の先生方の資質向上と後期中等教育の質的保証及び質の向上を支援することを目的とする事業を積極的に展開していくことに致しました。その一つが、このたびのセミナーの開催です。

このセミナーは、文部科学省と連携し、毎年、開催場所を変えて日本全国で教育政策実施の普及のための講演会や、高等学校等における先進的な具体的な取り組みなどをとりあげてのワークショップなどを行う計画で、昨年度の大阪開催に続き、本年度は高松での開催となりました。主催は教育学研究科・教育学部ですが、同じく長年にわたって全国の高等学校教員の養成に力を尽くしてきました広島大学の文学研究科、理学研究科とも連携しております。

本年度は、第 1 部の講演に続いて、第 2 部では、国語科と地理歴史科・公民科における教科学力の新しい形成についての試みを紹介する分科会、そして情報化、国際化を中心とする知識基盤社会における ICT を活用した新しい試みを紹介する分科会を設け、これからの高校教育を、共に考える場といたしました。